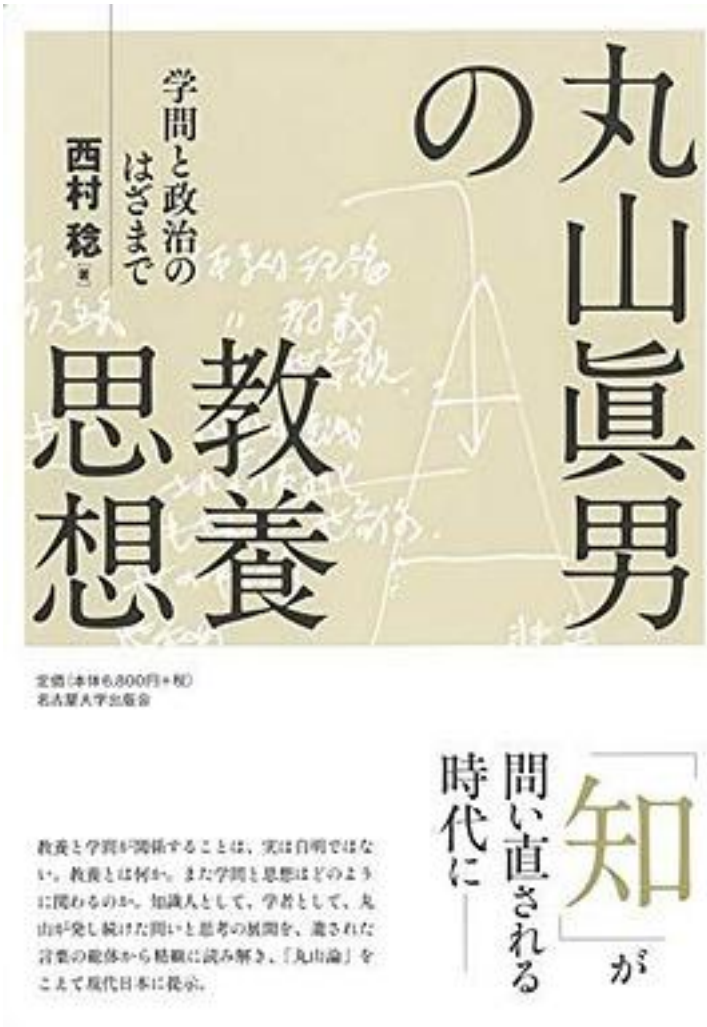


丸山眞男の教養思想



[丸山眞男の教養思想_ 下载链接1](#)

著者:西村 稔

出版者:名古屋大学出版会

出版时间:2019-7

装帧:平装

isbn:9784815809539

「知」が問い直される時代に――。教養と学問が関係することは、実は自明ではない

。教養とは何か。また学問と思想はどのように関わるのか。知識人として、学者として、丸山が甞し続けた問いと思考の展開を、遺された言葉の総体から精緻に読み解き、「丸山論」をこえて現代日本に提示。【書評】

・『みすず』(2020年1・2月合併号、読書アンケート特集、上山安敏氏紹介) “……丸山眞男を教養思想から追うという意表をついた追跡の原動力が何であったか考えさせられる。彼は日本人の心性に宿る「作法」と「教養」というモチーフを持ち続けた。それと記者出身の彼の筆致の裏にはジャーナリズム=編集者の感覚がある。偉大な日本人の成し遂げた業績を学者として丹念に資料操作していくと同時に編集していく技倆には脱帽する他ない。……”(p.91)

・『週刊読書人』(2019年11月29日号、第3317号、評者:山辺春彦氏)

・『図書新聞』(2019年10月12日号、第3418号、評者:都築勉氏) 教養と学問が関係することは、実は自明ではない。教養とは何か。また学問と思想はどのように関わるのか。知識人として、学者として、丸山が甞し続けた問いと思考の展開を、遺された言葉の総体から精緻に読み解き、「丸山論」をこえて現代日本に提示。

作者介绍:

目录: 凡 例

はじめに

第1章 戦後の学問と知識人

第1節 知識人と政治

a インテリとファシズム ―― お化粧的なヨーロッパ的教養

b インテリ像の変容

第2節 心情倫理と教養主義

a 抵抗の思想

b 2つの教養主義

第3節 実践との緊張関係

a 文化から政治へ ―― 知識人の戦略

b 社会的使命

c 実践の方法論的地平

第4節 アカデミズムとジャーナリズム

a 『現代政治の思想と行動』

b 学者・知識人・市民

第2章 欧化問題から原型へ

―― イデオロギーと「思想史」

第1節 内発性

a 麻生義輝書評

b 内発性からの脱却 ―― 「日本の思想」

第2節 天皇制の病理現象から「原型」へ

a 日本の普遍的病理現象

b 内発性論批判

c 〈原型―原型突破の原理〉

第3節 和辻哲郎との対質

a 学問とイデオロギー

b 和辻哲郎と原型論

第3章 丸山の欧化主義

―― 「思想」としての原型突破

第1節 イデオロギー鎖国から「精神的」鎖国へ

a 「御製」の思想 ―― 天皇制の欧化主義

b 戦後の鎖国

第2節 原型的思考様式とその克服

a 精神的鎖国から原型的思考様式へ

- b 主体的決断
- c 普遍主義の行方
- 第4章 欧化論と教養思想
- 第1節 大正教養主義
- a 原点 ―― 阿部次郎
- b 和辻哲郎の欧化論
- 第2節 法学部教養派と丸山
- a 南原繁・田中耕太郎の欧化論
- b 戦中・戦後の丸山
- 第3節 南原繁の影響と確執
- a 南原政治哲学
- b 日本と世界 ―― 欧化論
- 第5章 知識人から学者へ
- ―― 撤退の構造
- 第1節 「しつけ」と「型」
- a 江戸の再評価
- b 秩序と形式
- c 文化と型
- 第2節 遊びとしての学問
- a 「遊び」の意味
- b 「変革」から「面白さ」へ
- c ふたたび「知識人と学者」
- 第3節 教育の社会的使命
- a 社会教育
- b 学問の民衆化、もしくは民衆の学問化
- c 丸山塾 ―― 教養思想の伝道
- 註
- あとがき
- 人名・書名索引
- ・ ・ ・ ・ ・ (收起)

[丸山眞男の教養思想_ダウンロード1](#)

标签

丸山眞男

知識人

日本

评论

[丸山眞男の教養思想 下载链接1](#)

书评

[丸山眞男の教養思想 下载链接1](#)